

ROTARY INTERNATIONAL



2017-2018
国際ロータリーテーマ

ロータリー：
変化をもたらす

川崎西ロータリークラブ会報



2017-2018年度RI会長 イアン H.S. ライズリー

国際ロータリー第2590地区 川崎西ロータリークラブ

会長 黒川俊一 幹事 上松義典 会報委員長 池田裕一

Kawasaki-West RC Weekly 2017-2018

第2530回例会（17/18年度第13回）

平成29年10月6日（金）

■ 点鐘並びに開会宣言～黒川 俊一 会長

■ 斉唱 ～ソングリーダー 三木 博之 会員

国歌「君が代」

ロータリーソング 「奉仕の理想」

■ お客様紹介 ～親睦活動委員会 鈴木 隆浩 委員

ニーリー 美穂 様（シャイン・オン・キッズ事務局長

本日のゲストスピーカー）

■ 会長報告 ～黒川 俊一 会長

①10月1日より赤い羽根共同募金が始まりました。

福祉に対する皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

②地区大会特別企画の一環として、ロータリー子ども美術展への出品の取りまとめ依頼の案内が参っております。会員皆様のご家族等で未就学のお子様がいらっしゃれば、応募頂きたいと思っております。（詳細は事務局へお問い合わせ下さい）

③地区より2017～18年度「グローバル補助金」対象人道的プロジェクトの募集開始の案内が参っております。

④10月15日(日)にRLI（ロータリーリーダーシップ研究会）パートIIが開催されますが、当クラブより6名の会員が参加致します。当日は丸一日の日程となりますが、どうぞ宜しくお願い致します。

⑤去る10月4日に地区大会記念行事の一環として「ポリオ撲滅チャリティーディナーショー」が横浜ロイヤルパークホテルで開催され、当クラブより斉藤二郎パストガバナー、高良直前ガバナーご夫妻をはじめ、総勢11名で参加して参りました。当日はロータリー財団・米山学友による演奏家たちが共演し、我がクラブがお世話した、クオン・ジェー・バオさんもその一人として出演しておりました。ディナーショー終了後、我々が彼女の素晴らしい演奏を称える

と本当に嬉しそうにしておりました。彼女にとりましても、思い出に残る発表の場になったと思います。

■ 幹事報告～上松 義典 幹事 会報裏面をご覧ください。

■ 各委員会報告

□ 出席委員会

本日	会員数	対象者	出席	欠席	出席率
2530回	70名	69名	63名	6名	91.3%
前々回修正		メキップ 2名		7名	89.7%

□ 雑誌委員会 ～鈴木 敬一委員長

・横組 P7～9 日本と世界を結ぶ人づくり

思いを受けて世界へ！学友たちの今

・横組 P12～13 ロータリー米山記念奨学会資料

■ 卓話 ～「病院に犬がいる！ファシリテッドッグ」

シャイン・オン・キッズ事務局長 ニーリー美穂 様



あらためまして、認定NPO法人シャイン・オン・キッズ事務局長をしておりますニーリー美穂と申します。よろしくお願い致します。

本日はこのような高い場所から申し訳ないのですが、改めましてロータリークラブの皆様、菅原様、上松様を通じてご紹介頂きまして、誠にありがとうございます。今、ご紹介頂きましたが、私は神奈川県は非常にゆかりがあり、本籍は横浜市です。実は川崎市にも住んだことがあります。それから神奈川の話で言いますと、これからお話しするファシリテッドッグは、横浜の県立子ども病院にファシリ

ティードッグがおります。それではファシリティードッグのご紹介をさせていただきます。シャイン・オン・キッズという名前ですけれども、理事長のキンバリー・フォーサイスはアメリカ人です。夫はアフリカ育ちのイギリス人です。非常に国際的な夫婦ですけれども、実は日本に長く住んでいまして、日本で生まれたのがこのタイラー君でした。1才11



か月で白血病で亡くなったんですが、とても明るい赤ちゃんだったそうです。日本の病院で生まれまして、2か月位でちょっとおかしいなと、少し元気もないという事で病院で検査したところ、即白血

病という事がわかったそうです。そのまますぐ砧にある成育医療センターに入院して、2年近く闘病を頑張ったわけですが、日本の医療技術にはすごく満足していたようです。ただ、最先端の治療はあるが、子どもや家族の心のサポートが非常に少ないなと感じたとキンバリーから聞いております。そんなこともあり、何か自分の大変だった経験を、日本のお子さんの為に、日本のご家族の為に、何かこれはできるんじゃないかと一念発起してこの団体を立ち上げました。ちょうど11年前になります。私はこの時には関わってなかったんですが、タイラー君が亡くなった直後、2006年に最初にタイラー君の名前で「タイラー基金」という事で始まったんですけれども、2012年には認定という事で、東京都でなんと7番目の認定NPO法人になります。今、団体の話をしたんですけれども、まず小児がんですが、30~40年前は不治の病だったんですけれども、今、実は5年生存率が7割8割なんです。これは治るのは良いことなんですけれども、治るということは入院もしますし退院後もあります。お子さんの場合ですね、実は治っても大人になるにつれて色々な合併症に罹る場合があるんですね。これはホルモンの異常で、お子さんが産めない体になるとか、身長が伸びない、あと腎臓が弱かったり、色々な強い治療ですね、抗がん剤というのは、もう一つ身体的なことよりも実はですね、心ですね。やはりお子さんが普通に生活していて小児がんになって、急に入院します。いきなりお友達とも遊べなくなります。そして急に勉強・スポーツを頑張ってたことが、すべて出来なくなります。病気は治るんですけども心はそのまま。ここから何十年とありますから、何十年の間を自分がまた二次がんにかかるんじゃないかとか、何かホルモンの異常がまた出てくるんじゃないかとか、また手術しなければいけないんじゃないか、そういう思いをしながらこれから長い生活をしていくわけです。私たちはこれからお話しするプログラムを使って、お子さんたちの心理的な社会的なそういったサポートをしていくという、そういう役目を担わせていただいています。入院中の早い段階から心に寄り添って行って、皆さん大変な思いをされて治療もされますし、その後の

合併症の事もありますが、少しでも前向きになるにはどうしたらいいかという事をいつも私たちは考えています。とにかく子ども達は健康でも病気でもどんな問題を抱えていても、社会の中で輝いているべきだと私たちは思っていますので、そういう意味も含めて輝くシャイン・オンという意味もあるんですけども、とにかく子ども達を輝かせるためというミッションにしています。今私たちのプログラムが二つありまして、先ほどのファシリティードッグ、ゴールデン・レトリバーを病院に滞在させるという、それは今、神奈川の病院と静岡のこども病院ですね、両方1頭ずつ1チームずつあります。そしてもう一つ勇気のビーズというのがありまして、抗がん剤治療などをする時に意味のあるビーズをつないでいって、子ども達が日記をつけていって前向きに治療をするというのやっています。ファシリティードッグというのは、皆さんあまり聞かれたことがないもしれませんが、特定の施設に常勤して職員の一人として活動する犬です。医療施設・特別支援学級・裁判所などでも活躍します。アメリカでは普通に成人の病院でファシリティードッグが活躍しています。実は犬介在療法と言われて、すでに科学的な効果の検証もされています。我々のファシリ



ティードッグは病院に常勤していますので、長期的な心理面でのサポート、リハビリ支援、ターミナル期のお子さんの支援も行います。緩和ケアチームにも入って活躍しています。人間にはない力で、辛い治療中の子供達に笑顔をもたらしています。私たちの今の運営面の課題ですが、今、年間900万円が1頭のチームでかかっている、こういったところで皆さんには是非ご支援頂きたいと講演もしています。スポンサーシップということですが、実は来年、都内の公的病院に1チームが入ることになっています。その時に就任式とかもやりますので、もし皆様からご支援いただけるようでしたら、資料も追ってお送り致しますので、企業でも個人の方でもロータリーさん全体でもいいので、その様なご支援をいただくと、色々な特典が付いてきます。就任式ご招待特典では、普段出張の難しいファシリティードッグに会えたりします。これはちょっと大きなスポンサーになりますけれども、犬のハーネスにロゴをつけさせて頂くという様な事もしています。これは余談ですが、7月1日がファシリティードッグの日という事に認定されていて、少しずつ認知されています。今私たちは今後こういったプログラムを、事業の安定化と認知を向上しながら、どこの病院にも日本中のこども病院にファシリティードッグをぜひ導入したいなと思っています。本当に今日はご清聴ありがとうございました。